

健康登山07:自然歩道04(清滝～二ノ瀬)

コース	清滝 3.5km/73 1.5km/38 3.2km/50	高雄 1.2km/21 上ノ水峠 2.9km/62 山幸橋 1.7km/30	梅尾 3.1km/55 源光庵前 2.5km/38 大岩 1.6km/55	中川 1.5km/39 正伝寺 夜泣峠 0.9km/35	菩提ノ滝 二ノ瀬
水平距離	23.6km		断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km		
水平換算距離	24.8km				
累計高低差	登り1008m、下り940m				
標準歩行時間	8 : 17				
実績歩行時間	7 : 00				



山行報告

山行日 2005・12・01(木) 天候 晴 参加者 10名

清滝9:12 高雄10:17 梅尾10:31 中川11:28 菩提ノ滝11:57~12:28 上ノ水峠
 行動 12:57 千束13:40 源光庵前13:55 西方寺14:27 山幸橋15:19 大岩15:37 夜泣
 峠16:15 二ノ瀬16:39 出町柳駅17:10

記 録

清滝から二ノ瀬まで全行程を歩けば23.6km(水平換算距離24.8km)でB山行だが、源光庵前の一次解散地点までは13.7km(水平換算距離14.6km)でA山行となる。
 一般コースと健脚コースを同時に行うという試みである。5名は源光庵前で下山された。
 前半は3.47km/h、後半は3.8km/hで歩いており計画より少し早い。舗装道路を長く歩いたことと歩きやすい気温によるものと思われる。

今回は紅葉の名所と数多くの著名な社寺をつなぐ洛北の名所めぐりコースである。
 清滝から高雄、梅尾までは紅葉狩りの観光客気分で歩いたが、梅尾から中川トンネルまでの3.5kmは狭くて歩道のない周山街道を一行で歩いた。行き交う車が気になりみんな無口になった。
 中川から上ノ水峠までは北山杉のきれいな緩やかな登り道となる。途中、菩提ノ滝で昼食をした。上ノ水峠からの下り道も歩きやすい階段になっていた。
 やがて京見峠からの道と合流し、光悦寺の前を歩いて14時に一次解散地点に着いた。

下山者と別れた後、日没の早い時期なので少しペースを上げて山幸橋へ向った。
 賀茂川越しに比叡山と北方稜線がくっきりと見えた。肉眼で玉体杉が確認できた。
 あちこちで京野菜を栽培されていた。山幸橋辺りから北側の山の紅葉は見事だった。
 3時半に大岩着、あとはゆっくりと夜泣峠を越えて二ノ瀬駅へ向った。
 4時半二ノ瀬駅着、何とかヘッドランプを使わずに下山できた。

自然歩道 (清滝～源光庵～二ノ瀬)



渡猿橋を出発
09:18



清滝川左岸を
高雄へ向う
10:00



周山街道を
中川へ
10:31



菩提ノ滝にて
12:28



菩提ノ滝から
上ノ水峠へ
12:51



鷹峯千束から
源光庵へ向う
13:43



尺八池
14:10



京野菜畑
と比叡山
14:41



夜泣峠
16:09



落葉を踏んで
二ノ瀬へ下る
16:20

名所・旧跡ミニガイド（東海自然歩道：清滝～源光庵～二ノ瀬）

- 清滝 : 愛宕詣りの水垢離場であり、茶屋や宿屋の立ち並ぶ宿場であった。
- 清滝川 : 愛宕へ参詣する人は清滝川で水垢離をし、身を清めてからお詣りをした。
清滝川は結界であり渡猿橋（赤い橋）を渡った参詣者は俗世を離れ聖なる空間へと迎えられる。清滝より落合までの下流は金鈴峡、清滝から高雄までの上流を錦雲峡と称されている。
- 試峠 : 足弱のものはこの坂でまいってしまい愛宕社へお詣りできない。そうした人は神のお受けのない人と言った。（愛宕山へのテストコースでもあった。）
- 高雄（高尾）: 紅葉の名所。北に続く槇尾、柵尾とあわせ三尾という。
- 高雄山 : 428.6m、愛宕五峰の一つ、平安時代初期には高雄山を清滝峯と呼んでいた。
愛宕五峰と愛宕五坊、朝日峰（白雲寺）、大鷲山（月輪寺）、高雄山（神護寺）、滝上山（日輪寺）、賀魔蔵山（伝法寺）。
中国の五台山を模して五寺院が建立された。現在は月輪寺と神護寺のみ残っている。白雲寺の額は愛宕社の鉄鳥居に残っている。
- 神護寺 : 古くは高雄寺、高雄山寺といい、河内から移された。
和氣清麻呂を奉行として愛宕山頂に愛宕権現を祀ったとき、愛宕五坊の一つに数えられたという。2度の火災で寺勢は衰えたが1168年文覚が再興に奔走、源頼朝や後白河法皇の援助で目的を達した。北側の山腹に和氣清麻呂と文覚の墓がある。
- 高山寺 : 平安時代初めは度賀尾寺（とがのおじ）といった。高雄山山腹にある。
世界文化遺産、古都京都の文化財の中に登録されている。
1547（天文16）年、細川晴元軍の放火で全焼、1634（嘉永11）年、仁和寺御堂を移して金堂を復興した。
絵画の紙本墨書鳥獣人物戯画（国宝、平安～鎌倉）は特に有名である。
- 菩提の滝 : 滝の下の砂はきめが細かく、北山杉の丸太を磨くのに使われている。
山城三名瀑の一つでもある。
- 光悦寺 : 本阿弥光悦が江戸初期（1615）徳川家康からこの地を与えられ、一族、職人を率いて来住。交友関係は広く、豪商、芸術家が居を構えるようになり『鷹ヶ峰芸術村』と称された。死後、光悦の孫、日慈上人を開山として邸は光悦寺となった。紅葉の名所、光悦垣という袈裟袴の垣が珍しい。
- 源光庵 : 現本堂は伏見城の遺構と伝えられ、廊下の天上は関ヶ原の戦いのとき、伏見城を死守して自刃した鳥居元忠等の血の跡が残る「血天井」と言われる。

常照寺 : 表門は名妓吉野太夫が 23 歳の時寄進したと伝えられる朱塗りの赤門で吉野門と称されている。38 歳の若さで世を去った吉野太夫を偲び、毎年 4 月第 3 日曜日には吉野太夫花供養が催され、太夫道中や供茶法要を行って賑わう。

野間玄琢の墓 : 1626 (嘉永 3) 年、將軍家光の侍医となる。のち帰洛して禁裏付医師となった。領地内に百米四方の菜園をつくり、その隅に居宅を構えて本阿弥光悦とも交わった。

鷹ヶ峯 : 古代この一帯は遊獵地で網を使って鷹の雛 (鷹狩用) を獲ったのでこの地名がついたという。

大將軍神社 : 祭神、磐長姫命 (木花開耶媛命の姉)

このはなさくやひめのみこと

このあたり一帯は瓦づくりの工人が住んでいたところで、彼等の鎮守社と考えられる。周辺一帯は瓦窯跡群が数多く分布している。

西方寺 : 847 年 (承知 14) 円仁創建の天台寺院。

1312 ~ 17 年中興開山のとき浄土宗に改めた。六斎念仏で栄え、現在も 8 月 16 日の五山送り火の日に大文字の舟形を点火した白衣、向こう鉢巻の 16 人の青年が六斎念仏を行う。

正伝寺 : 元寇のとき、宋の名僧普寧の高弟慧安が岩清水八幡宮に参籠して敵国降伏の祈禱文を書き、末尾に『末の世の末の末まで我が国は万の国にすぐれたる国』と書き戦意高揚に努めた。このため龜山天皇 (第 90 代) ~ 正伝護国伝寺の寺号を与えられた。

靈源寺 : 1638 年、後水尾上皇 (天皇即位は第 103 代目) の勅願により、一絲文守 (仏頂国師) を開山として創建。文守は沢庵その他に師事し、その高風から後水尾上皇が深く帰依した。晩年滋賀の永源寺に移った。

いわくらともたか

いわくらともみ

文守は岩倉具堯の子である。岩倉具視がこの寺で落飾 (王侯貴族が出家すること) して岩倉村に隠棲した。墓地には具視も歯牙塚や岩倉家の墓がある。

大岩 : 道に大きな岩があることからこの地名になった。

夜泣峠 : お地蔵さんの祠の傍にある松の樹皮を子供の枕の下に入れておくと夜泣が止まると伝えられている。幼い惟高親王 (文徳天皇の第一王子) を抱いた母 (紀静子、峠下の富士神社にまつられている) がこの峠を越え貴船に向おうとしていたが日が暮れて峠で夜を過ごすことになってしまった。夜泣に困った母が地蔵に祈ると泣き止んだという逸話から峠の名がきている。